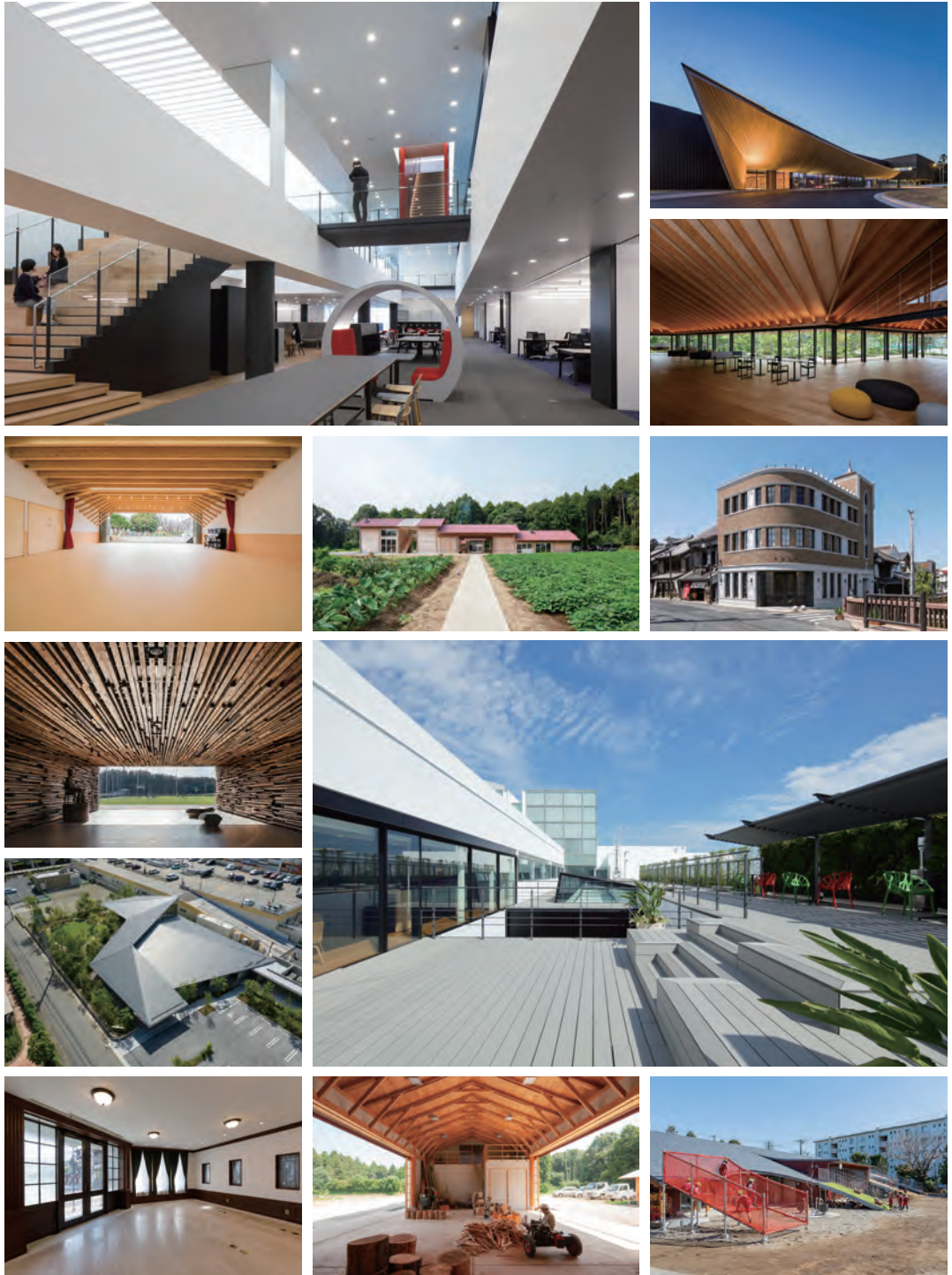


第27回（令和2年度）

千葉県建築文化賞 表彰作品集



主催：  千葉県

共催：  一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

令和2年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第27回となる今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、例年よりひと月ほど募集期間が短い中、59点もの御応募をいただきました。その結果、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞1点、優秀賞5点及び入賞3点の合計9点を選定したところです。

受賞作品は、新築の建物から既存ストックの有効活用と多岐にわたり、周辺環境との調和や利用者間の交流を誘発するもの、防災面への配慮、建築主の想いを体現したものなど、いずれも千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、本県の建築文化の向上と、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、皆様と共に、首都圏、日本をリードし、未来の千葉を担う次世代の子どもたちが誇れるような千葉県の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに御応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさつといたします。

令和3年3月

目次

千葉県建築文化賞について	1	むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷	9
第27回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	銚子駅舎	9
竹中技術研究所リニューアルプロジェクト	3	車窓のほっこりする家～松波の家#2	10
丘の幼稚園（まこと第2幼稚園）	4	選考の基準	10
高円宮記念JFA夢フィールド	5	第27回千葉県建築文化賞検討会議	10
新柏クリニック糖尿病みらい	6	千葉県建築文化賞の実績（応募点数・受賞作品数）一覧	
千葉商船ビル	7	受賞作品の位置	
栗源第一薪炭供給所(1K)	8		

第27回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募59点から9点授賞



(選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第27回千葉県建築文化賞は令和2年7月の検討会議で募集要領を定め、8月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数59点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物10点、住宅2点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞1点、優秀賞5点、入賞3点を表彰候補作品として決定した。

今回は新型コロナウイルス感染症の影響で当初実施が危ぶまれたが、さまざまな対策を検討し、例年より1か月遅い8月上旬の募集開始に漕ぎつけることができた。短い募集期間にもかかわらず力のこもった作品に応募・推薦して下さった皆さまの熱意に、この場を借りて深く感謝します。

検討会議も座席の間隔を広くとり、一部オンライン参加を導入するなど、入念な感染防止策を講じての開催となった。募集から選考まで無事に終えることができたのは、前例のない煩瑣な準備に奔走していただいた事務局のおかげである。

募集部門	選考過程	応募総数	第1次選考・現地調査	表彰候補作品選定		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		45	10	1	5	2
住宅		14	2	0	0	1
合計		59	12	1	5	3

(総評)

一般建築物の部

一般建築物の部への応募は45点であり、事務所、公共施設、幼稚園などを中心に、興味深い作品が見られた。

最優秀賞の「竹中技術研究所リニューアルプロジェクト」は、1993年に竣工した研究所の既存中庭部分に屋根をかけて内部化し、生みだされた中央エリアに向けて各研究室を開き、研究者の異分野交流と柔軟な働き方に対応するワークスペースの創出をはかったものである。他企業にも開かれたイノベーションスペースや地域の生態系再現と防災性に配慮した外構などと併せ、良質なデザイン性を備えたりリニューアルが高く評価された。

優秀賞の「丘の幼稚園(まこと第2幼稚園)」は、1960年代に開発された住宅団地のなかに立地する幼稚園の建て替えである。園庭から立ちあがる片流れ屋根が、園児たちに遊び場の「丘」を提供し、その下に保育室とホールが庭に面して並んでいる。庭の先には団地内の緑地がつづく。子供たちが遊びを通して学び成長する場が魅力的にしつらえられている。

「高円宮記念JFA夢フィールド」は、クラブハウス、フットサルアリーナ、4面のピッチなどで構成される公園施設であり、地域のより所にもなる日本サッカー界の拠点として建設された。シャープな反りをもつ深い大庇、木ルーバーが視線をピッチへと誘うエントランスホールなど、シンボル性の高いデザインがみごとである。

「新柏クリニック糖尿病みらい」は、木材を豊富に使った混構造平家建ての糖尿病専門クリニックである。南側に雑木林を彷彿させる庭が配され、高い勾配天井に包まれた待合からは、ガラス壁一面にあふれる緑を満喫できる。ともに授賞作である「新柏クリニック」「めぐりの庭」と一体になって、地域の景観形成にも一役買っている。

「千葉商船ビル」は、佐原の町並み保存地区、香取街道と小野川が交差する角地に建つ3階建ての洋風ビルである。昭和初期の洋館をモデルに、周辺の町並みにスケールを合わせながら、当時の様式・工法を再現している。伝統的町並みに好感のもてる点景を生みだしており、建築主の想いと設計者・施工者の努力に敬意を表したい。

「栗源第一薪炭供給所(1K)」は、荒れた森の間伐、薪の生産を障害者や高齢者で行うための施設である。里山に囲まれた敷地には、切妻三段屋根の主屋とサツマイモ畑、スイートポテト販売所、ジャム製造小屋などが配置されている。持続可能な環境づくりを視野に入れ、福祉と農林業を組み合わせた意欲的な試みである。

入賞の「むつぎわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷」は、水平性を強調した軽快な平家建てに、直売所、温浴施設などを納めている。隣接して防災広場と備蓄倉庫を設置し、天然ガスによるコージェネレーションシステムを備えており、2019年の台風災害時には町民に無料でシャワーを提供したとのことである。「銚子駅舎」は、地場産の木材を活用した建て替えであり、水平の軒、広い高窓、駅前広場に面して開いた案内所と店舗などにより、ゲート性を感じさせる建物である。屋外広場につながるコンコースには駅ピアノが置かれ、地域交流の場となっている。

住宅の部

住宅の部の応募は14点であり、昨年度(30点)の半分に満たなかった。新型コロナウイルス感染症の影響で、個人生活の場への調査受け入れを躊躇された方が多かったのかもしれない。応募していただいた皆さまに改めて感謝するとともに、次回、多数の方が応募できる状況になることを切に願っている。

入賞の「車窓のほっこりする家~松波の家#2」は、線路ぎわに建つ2階建て住宅である。プライバシーを守りながら自然光と風を取り込み、車窓からの視線に対しても潤いのある景観を提供するように心を配っている。

最優秀賞

一般建築物の部

建築主：株式会社 竹中工務店
設計：株式会社 竹中工務店
施工：株式会社 竹中工務店
所在地：印西市大塚1-5-1

～時を経ても変わらぬ理念と、新たな価値創造と技術革新により変わる形態～

竹中技術研究所リニューアルプロジェクト



既存の中庭を内部化して全研究員が集まるひとつながりの研究室

本作品は1993年に竣工した技術研究所の改修プロジェクトで、本賞の第1回表彰作品でもある。当時の講評によると、豊かな自然環境を活かすとともに、周辺地域の景観との親和性が高いこと、働く場の環境を新たに提案しようとする姿勢が高く評価されての授賞であったわけだが、時代に合わせて建築のカタチは変わっても、精神が引き継がれていることが大変感慨深い。

プランにおける大きな変更点は、研究棟を分節していた中庭を内部化することで一体化を図ったことである。天井部には昼光制御機能を備えたトップライトを設け、天候や時刻による変動を取り込みつつ、温度や光量など環境要素を多様化させている。従来の設計であれば、平均的な快適解に基づく定常空間を目指すところだが、非定常かつバリエーションのある環境を高い制御技術により用意し、執務者の作業や好みに応じて場所を自由に選択可能とした。副次的に執務者が専門分野に因ら

ず自動的にミックスされ、コミュニケーションを誘発する仕掛けとして機能する点も興味深い。これまでも「パーソナル環境制御」は無かったわけではないが、空調や照明の出力を個別制御する設備中心の技術が多いのに対し、本手法は意匠と設備の協働が無ければ実現せず、他分野連携の重要性を謳う理由を立証しているようにも思える。

また、自然環境への取り組みも、生物多様性やグリーンインフラの技術を実証研究する「調の森SHI-RA-BE」も配備し進化を続けている。時代を重ねる毎に建築が魅力を高め、新たな価値観を創出・提案してくれることを今後も期待したい。

(加藤 未佳)



増築により生まれた屋上庭園は屋外での執務も可能となる



周辺住民と協業し、都市養蜂や有機野菜の栽培にも取り組む調の森SHI-RA-BE®

(撮影全て/エスエス 島尾望)

建築主：学校法人 山口学園
 設計：株式会社STUDIO YY
 施工：木村建設工業株式会社
 所在地：千葉市花見川区花見川6-18

～緑地と未来に向かって伸びる丘のような園舎～

丘の幼稚園（まこと第2幼稚園）



園庭側外観

園庭から丘に見立てた片流れの屋根に駆け上る園児たち。躍動感ある外観は印象深く、園児が走り回る姿が想像できる魅力的な園舎である。

この計画は団地の中にある築50年を経た幼稚園を認定こども園とする木造平家建の建替計画だ。建替前の園舎は南側の団地に向かっていて園庭の大半が団地の影となり、西側の緑地とも分断されていた。そこで西側の緑地と園庭が繋がるよう園舎を配置した。東側エントランスから「森のホール」を介してそのまま園庭につながる動線計画とし、園舎には緑地に向かって伸びる丘のような屋根をかけた。

工期と予算をクリアするため木造在来工法を採用。管理諸室は最低限の天井高とし、ホールと保育室は片流れ屋根（丘）とした。ホールの梁を方杖により隣接する保育室に分散し屋根を反りあげて外に繋がる大開口の空間としたことで園庭からは丘がせり上がったように見える。また屋根形状を活

かし、高低差を利用した重力換気による通風、冬期は高窓からの自然光を取り入れ、明るく快適な室内としている。

森のホールは式典や発表会だけでなく日常の園児たちの居場所となり、地域を結ぶ位置づけとなっている。周辺環境との兼ね合いを熟考した配置と明快な平面計画で空間に無駄がなく、園児、保育者、保護者、地域の人に受け入れられ使いこなされている印象だ。

限られた予算のため、既存什器や家具を利用しており、空間になじんでないところも見られたが、今後設計時も行われたというワークショップや園との連携で改善ができると思われる。未来に向かう丘の幼稚園の成長を期待している。

（藤本 香）



ホール内観



遊び場となっている丘の屋根

（撮影全て/Graphy, inc.）

優秀賞

一般建築物の部

建築主：公益財団法人 日本サッカー協会

設計：三菱地所設計・戸田建設一級建築士事務所設計共同体

施工：戸田建設株式会社千葉支店

所在地：千葉市美浜区美浜11

～サッカーを通じ「夢」を描き・育み・叶えるために創出された地域に開かれた拠点～

高円宮記念JFA夢フィールド



サムライの刀・なでしこの薙刀を連想させるクラブハウス正面外観

千葉県幕張海浜公園内に、日本代表を含むサッカー選手が集う施設が誕生した。選手達の集中や守秘の観点からすれば、閉鎖的なプランもあり得ただろうが、地域の人々が集う公園内という立地を活かし、開かれた計画となっている。高円宮憲仁親王殿下は生前に「30年前の代表選手と現役の代表選手と高校生と小学生が同じボールを蹴るといふ姿」を望むお言葉を述べられているが、公園内の動線に美しく収まった緑のフィールドを見ると、まさにその光景が目浮かぶようである。

クラブハウスは、刀と薙刀からインスパイアされたという天に続く大庇の曲線ラインが印象的で、たおやかな雰囲気と気高さが共存し、その鋭さには強い意志を感じる。それを照らすライトもエントランスに自然と促されるように絶妙な光の強弱が創り出されていて説明がいらぬ。大庇のエッジから室内に続く木の流れや、エントランスのデザインは、BIMを用いたことで立体的で躍動感・疾

走感などの印象創出に成功しているが、寸分の狂いも無いディテールを見ればそれを支える丁寧な施工にも気付く。残念ながら紙面の都合で全ては紹介できないが、他にも、クラブハウスと富士山を繋ぐ直線上にメインフィールドのセンターラインを重ねるなど、幾つものストーリーに彩られており、多大な労力を惜しまずに丁寧に造りあげられたことが伝わってくる。

このような場に出会うと、建築から生み出される様々な人々の交流(建設時を含め)が思いを紡ぎ、文化を育て未来への礎となることを再認識させられる。長く愛される施設となるだろう。(加藤 未佳)



メインピッチへ流れるよう到来訪者の視線を誘うエントランスホール



高円宮記念JFA夢フィールド俯瞰

(撮影全て/株式会社 川澄・小林研二写真事務所 日吉祥太)

建築主：医療法人社団中郷会 新柏クリニック
 設計：株式会社 竹中工務店
 施工：株式会社 竹中工務店
 所在地：柏市新柏1丁目4番5

～3期目に入った糖尿病メディカルタウンの明日の姿～

新柏クリニック糖尿病みらい



多面形の木天井がエントランスからスタジオまでひとつに繋ぐ

最初の第1期計画から一貫して糖尿病患者のみならず、地域住民にも癒しを提供する「メディカルケアタウン」の創出を目指してきた医療施設である。今回の第3期は1期、2期と1区画離れた場所に設けられ、美しい庭を物理的、視覚的に建築に取り込んだクリニックとしてこれからの新しい姿を実現している。特に、通常ストレスとなりがちな待合いの空間は、「受付→採尿・採血→問診→診察」の流れに沿った待合いと、運動・食事療法を行うスタジオをひとつながりの空間として蛇行させ、庭を囲むような自由で絶妙な空間形状と配置を見せている。この空間は細い鉄骨の柱と、カラマツの梁、ヒノキの天井の混構造で、BIMとプレカットを駆使して実現した複雑な屋根形状はハイサイドライトを巧みに取り込み、採光と排煙の実利的機能性を超えた豊かな内部空間と、水平線が強調された折り紙のような屋根形状がユニークな外観を創り出している。



雁行する診察室上部のハイサイドから空を見る

この恵まれた条件のプロジェクトにおいて、庭を含む全体構成から細部までを貫くインハウスの若い設計者の心意気は小気味よく、これからのクリニックのあり方に一つの望ましい方向性を示していると言えるだろう。そして今後も持続的に展開されるに違いない超高齢化社会において、周辺地域に美しく開いた健康・医療の拠点として、この「クリニックタウン」に見られる総合的で革新的な建築環境の取り組みの発展に期待するところが大きい。新型コロナウイルス感染症の影響に翻弄された2020年において、そのことを強く思わざるを得ない。

(岩村 和夫)



カラマツの登り梁が連なる伸びやかな軒先とガーゴイル

(撮影全て/Shigeo Ogawa)

優秀賞

一般建築物の部

建築主：千葉商船株式会社

設計：岡建工事株式会社一級建築士事務所

施工：岡建工事株式会社

所在地：香取市佐原イ503番地1

～昭和初期の擬洋風と現代技術の統合による、橋詰の創造的まちなみ再生～

千葉商船ビル



外観

香取市佐原の「重要伝統的建築物群保存地区」の一面に、昭和初期の洋館をモデルにして建替えられた3階建てRC壁式構造の事務所・共同住宅である。この地区には本賞の審査で何度か伺った経緯があるが、伝統的和風木造ではなくRCの擬洋風建築を目指したこのビルは、そのテーマ性故に、我が国における歴史的まちなみ保存のあり方に一石を投じる事例であり、その審査は大変興味深い体験であった。

佐原は川越、栃木と並び称される「三大小江戸」の一つとされ、小野川の両岸に沿って歴史的な街並みが見事に保存されている。そのほぼ中心に架かる香取街道忠敬橋の橋詰にあたる角地が「千葉商船ビル」の敷地である。この地で長年まちづくりに貢献してきた

施主は建築の造詣が深く、縁のあった東京新橋に建築金物の製造老舗が昭和初期に建てた著名な洋風建築をモデルに、その細部の復元を含めた創造的まちなみ保存にチャレンジした。この新

たな取り組みには地区の規定との調整に大変多くの時間が費やされたが、施主の熱意とそれに応えた景観審議会、大学、建設会社、担当自治体等との話し合いとネットワークによって、細部に至る綿密な設計と技の試みが展開された。

その結果、橋詰の角地のまちなみに溶け込んだ、しかし稀有な姿を見せる建築が誕生した。そして、小規模ながら擬洋風建築の優れた伝統技術を継承し実践した設計者や職人たちの献身的な仕事の出来栄は、ここを訪れ眺める人々の心を大変豊かにしてくれる。建築文化として長く、そして丁寧に利用され続けることを切に期待したい。

(岩村 和夫)



1階内観 オーク材の装飾と大理石の床



佐原の大祭

優秀賞

一般建築物の部

建築主：社会福祉法人 福祉楽団
設計：アトリエ・ワン
施工：株式会社ハヤシ工務店
所在地：香取市沢2452 番1

～里の生態系を成す赤屋根たち～

栗源第一薪炭供給所(1K)



栗源第一薪炭供給所(1K)正面

(撮影/アトリエ・ワン)

赤い切妻屋根に覆われた開放的な作業場で、スプリッターマシンの助けを借りて、高齢者や障害者が薪割りに勤しんでいた。農福連携ですっかり有名になった福祉楽団が2018年に始めた就労継続支援B型の新しい試みだ。

これに先行する「恋する豚研究所」は、しゃぶしゃぶレストランが目玉の施設(就労継続支援A型を含む)で、2014年に同じく優秀賞を授賞している。赤い屋根が人目を引く建物だ。今回の薪炭供給所は、その隣地に建つ。

新事業のきっかけは、この事務所の薪ストーブ用に、裏の杉林の間伐材を薪に割っていたら、薪を譲ってもらえないかと言われたことだったという。薪炭供給所の中心の建物は、三段押し出しのかたちをした屋根に覆われている。材2丁抱き合わせて頬杖を挟み込みこむことで、地元の一般的な杉材を用いて、開放的な木造の7.2メートルスパンを実現させている。

屋根の小屋組を支える丸柱は、裏の杉林から伐り出したものだ。裏の林の樹木が柱

に見えたから、薪割り作業場の建物ができる。そして、もともと隣地は畑地だったから、そこで栗源特産のさつまいも紅小町を栽培した。収穫したさつまいもがお菓子に見えたから、スイートポテトができてスイートポテト屋さんのカフェ小屋が建った。アクターネットワーク流に言えば、こういう説明になろうか。もう一軒、ジャム工房の小屋が加わり、赤い小さな屋根が増えていった。

目標があらかじめあって、それを目指してつくった建物ではない、といわんばかりに力が抜けている。樹木やいものエージェンシーに突き動かされずしてできなかった建物群だ。そこが古くて新しい。

(岡部 明子)



敷地全景

(撮影/福祉楽団)



栗源第一薪炭供給所(1K)の作業場内観

(撮影/アトリエ・ワン)

入賞

一般建築物の部

建築主：睦沢町
むつざわスマートウェルネスタウン株式会社

設計：パシフィックコンサルタンツ株式会社

施工：株式会社 畔蒜工務店

～自然と調和し、地域の特性を活かした道の駅～

所在地：長生郡睦沢町森字上耕地2番1

むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷

長生郡睦沢町に造られた「むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷」は、自然に恵まれ、特に周辺には山林が多い敷地にふさわしく、景観に考慮した平家造りとし、高さを抑えて自然と一体となり、内外に木質系の材料が使われていて潤いと安らぎの空間になっている。

施設の利用者は、車だけではなく茂原駅や上総一ノ宮駅からのバスも利用出来るのはありがたい。

同敷地内に地域優良賃貸住宅もあり、居住者にも利用性の高い交通アクセスとなっている。

施設は、道の駅として地元野菜などの直売所、温浴施設、飲食施設、花卉室等が中央エントランスホールから利用しやすく計画されている。また、この建物には地場産の天然ガスによるコージェネレーションシステムが設置されていて停電時でも施設内の電力や温泉施設の昇温用の熱の供給が可能で、令和元年の台風で町が全面停電した際も町民に無料でシャワーが提供された。



明るく、温かみのある
情報ギャラリー・くつろぎ空間

災害に対しては、防災広場、防災倉庫の設置等含めてしっかりとした対策が考えられている。

建物の名称の様に、多目的な用途をもつものが配置されたゾーニングが、敷地の活用及び周辺に対する優しさや目的を表している。

この施設は今後、多くの人に愛され活用されることと思う。昨今、自然災害が多い中、この様な施設が数多く建設されていく事を期待している。
(竹江 文章)



緑に映える白を基調としたシンプルな建物全景

入賞

一般建築物の部

建築主：東日本旅客鉄道株式会社 千葉支社

設計：東日本旅客鉄道株式会社千葉一級建築士事務所
株式会社 JR東日本建築設計

施工：鉄建建設株式会社 東京鉄道支店

～来訪者を包む杉の香～

所在地：銚子市西芝町1438

銚子駅舎

銚子駅は総武本線の終着駅で、現在1日の利用者数が3,000人強の小規模駅舎だ。塩害にさらされる立地のため、木造を選択している。改札を出ると清楚な木の空間が迎えてくれる。

特に、幅が4m弱、天井高8mほどで、20m以上長く延びるラチ内コンコースでは、壁一面に広がる山武杉ささらご張りが、絞られて上から注ぐ自然光を受けて美しい。節が多く淡紅色の濃淡が強い材を、人の手の触れない上部に配したというが、それが効果的。片隅に置かれた駅ピアノの奏でる音と杉の香があいまって、思わず深呼吸したくなる。駅ができた後に地元の方からピアノを提供したいとの申し出があって設置したのだという。線路沿線では、倒木未然防止などのために樹木を伐採しているが、それらを建材として待合室の壁面の一部に用いている。

長年人びとに親まれてきた建て替え前の駅舎は、旧海軍の香取航空基地格納庫を転用したものだった。今回の建て替えにあたり、旧建物の一部をバックヤード的用途に改修して残している。その特徴的な構造が、新駅舎との間の広場から見えるようになっている。

今回は、「偶然降り立ち、とても心地よい空間が印象に残りました」と、一県民の方に推薦していただいた。建築とは、そこを歩き交う人たちに育てられていくものだと実感させられた。

(岡部 明子)



外観北東面夜景



ラチ外コンコース

入賞

住宅の部

建築主：M氏

設計：アトリエ24一級建築士事務所

施工：有限会社 伸建設

所在地：千葉市中央区

～内に開いた明るく開放的な住まいの実現～

車窓のほっこりする家～松波の家#2

計画地は、南西方向はJR線路脇の道路に面した角地で北東隣地は住宅が迫っている。道路からの通行人の視線と少し高い車窓からの視線が、住まいからの視線と重ならないよう考慮し、開口部の高さ、位置、大きさを設定している。2階の家族室と屋上リビングから線路側に広がる眺めは爽快だ。反対に車窓からの夜景は住まいの明かりが行灯のように灯ると想像できる。

建築主は国産の自然素材を使った、高性能断熱と気密の家族5人が安心して暮らせる住まいを望み、それに設計者が応えるかたちで緻密に設計を積み重ねていた。室内は吹抜上部のハイサイド窓や2階ベランダから自然光が入り、通風が確保され、1階LDKはプライバシーが守られた安心感のある空間で、家族室や個室とは吹抜を通じて繋がっている。全体が調湿に優れた木の温もりと香りが溢れる住まいに仕上がった。



1階ダイニングキッチンと上部吹抜け



西側(総武線側)外観夜景

外壁の国産杉材は建築主が塗装を施した。経年変化による多様性が期待できて通気性が良く、温度を下げる効果があるという。設計者はコスト調整に苦労したとのことだったが、双方のコミュニケーションが上手くいき建築主にとって満足できる住まいが完成したといえる。今後家族の成長とともに変化していく住まいである。

(藤本 香)
(撮影全て/松田哲也)

選考の基準

次の事項を選考の基準とし、総合的に審査します。

- デザイン性に優れていること
- 安全で快適な建築空間を創出していること
- 防災への配慮がなされていること
- その他、独自の取組や提案がなされていること
- まちなみや周辺の景観と調和がとれていること
- 環境負荷の低減に配慮していること
- 施工上優れていること

※建築基準法等の諸法令に適合しており、かつ近隣等との紛争が生じていないこと等も含む。

第27回千葉県建築文化賞検討会議

【敬称略 委員は五十音順】

委員長 北原 理雄：千葉大学名誉教授

委員 岡部 明子：東京大学大学院教授

副委員長 岩村 和夫：東京都市大学名誉教授

委員 加藤 未佳：日本大学准教授

委員 竹江 文章：一般社団法人千葉県建築士会会長

委員 藤本 香：建築士、千葉大学非常勤講師

千葉県建築文化賞は、多くの皆様の協力に支えられ、回を重ねてまいりました。その間、県下の広い地域にわたり、164(奨励賞を含めると224)の建築物が受賞され、それぞれの地域に根付いています。第28回の作品応募は、令和3年夏頃行う予定です。皆様方の御応募をお待ちしております。



千葉県建築文化賞の実績 (応募点数・受賞作品数) 一覧

回数	年度	応募総数	建築文化賞			建築文化奨励賞
			部門		合計	
1~19回計 (H6~H24)		1,600	景観上優れた建築物の部	46	96	58
			ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部	26		
			環境に配慮した建築物の部	24		
20	H25	68	一般建築物の部	4	6	2
			住宅の部	2		
1~20回計		1,668			102	60

回数	年度	応募総数	部門別内訳	部門	建築文化賞			合計
					最優秀賞	優秀賞	入賞	
21	H26	52	32	一般建築物の部	1	2	3	6
			20	住宅の部	0	1	2	3
22	H27	54	33	一般建築物の部	1	3	2	6
			21	住宅の部	1	1	0	2
23	H28	98	52	一般建築物の部	0	3	2	5
			46	住宅の部	0	3	1	4
24	H29	81	56	一般建築物の部	1	3	2	6
			25	住宅の部	0	2	1	3
25	H30	75	37	一般建築物の部	0	2	3	5
			38	住宅の部	1	2	1	4
26	R1	67	37	一般建築物の部	1	2	3	6
			30	住宅の部	1	1	1	3
27	R2	59	45	一般建築物の部	1	5	2	8
			14	住宅の部	0	0	1	1
21~27回計		486			8	30	24	62

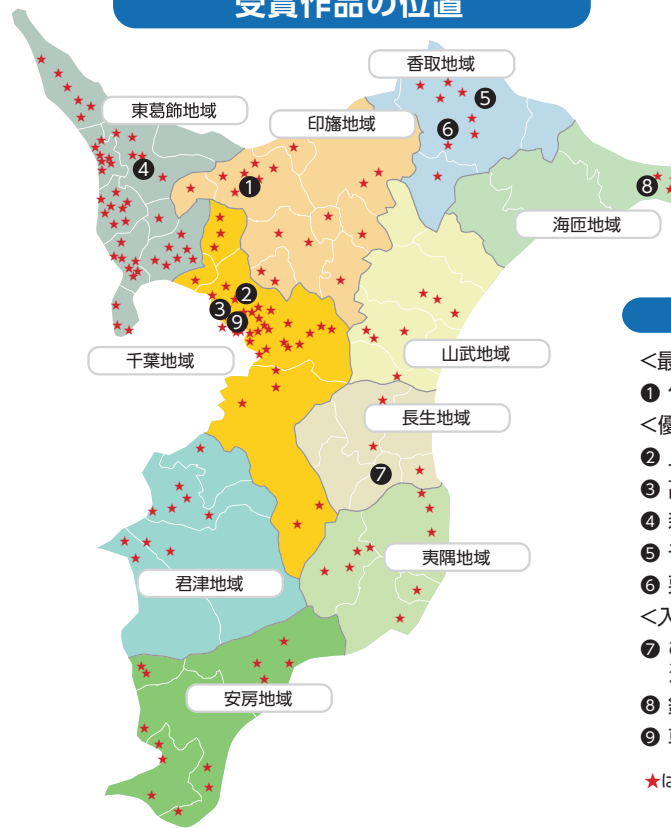
※1 千葉県建築文化賞は、「景観上優れた建築物の部」及び「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」の2部門への表彰制度として平成6年度に創設。
 ※2 第3回(平成8年度)に「建築文化奨励賞」を新設。
 ※3 第5回(平成10年度)に「環境に配慮した建築物の部」部門を新設。
 ※4 第12回(平成17年度)に「高齢者・障害者等に配慮した建築物の部」から「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」へと部門の名称を改称。
 ※5 第20回(平成25年度)に「景観上優れた建築物の部」、「ユニバーサルデザインに配慮した建築物の部」及び「環境に配慮した建築物の部」の3部門から「一般建築物の部」及び「住宅の部」の2部門へと部門を再編。
 ※6 第21回(平成26年度)より「建築文化賞」及び「建築文化奨励賞」から「最優秀賞」、「優秀賞」及び「入賞」へと賞の区分を再編。

第27回千葉県建築文化賞に御応募いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。応募総数59点の中から最優秀賞1点、優秀賞5点及び入賞3点の、合わせて9点が選定されましたが、応募作品はどれも優れた特徴をもった質の高い作品でした。作品に携わられた皆様に敬意を表し、今後ますますの御活躍を期待しております。(千葉県建築文化賞検討会議事務局)

建築文化賞受賞作品

所在市町村別の数	
千葉市	35
銚子市	4
市川市	7
船橋市	7
館山市	3
木更津市	5
松戸市	8
野田市	6
田原市	2
茂田市	2
成田市	2
佐倉市	2
金志野市	3
習志野市	1
柏市	6
勝浦市	1
浦安市	5
山手市	7
流山市	3
八千代市	4
鴨川市	1
鎌谷市	2
君津市	2
富津市	3
浦安市	2
四街道市	1
袖浦市	1
八街市	7
印西市	1
白井市	1
富里市	1
南房総市	4
香取市	9
山武市	3
いすみ市	3
大網白里市	1
酒々井町	1
栄町	1
多古町	1
一宮町	1
睦沢町	1
多喜町	4
大宿町	1
御鋸町	2
計	164

受賞作品の位置



第27回千葉県建築文化賞

<最優秀賞>

① 竹中技術研究所リニューアルプロジェクト

<優秀賞>

② 丘の幼稚園 (まこと第2幼稚園)

③ 高円宮記念JFA夢フィールド

④ 新柏クリニック糖尿病みらい

⑤ 千葉商船ビル

⑥ 栗源第一薪炭供給所(1K)

<入賞>

⑦ むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷

⑧ 銚子駅舎

⑨ 車窓のほっこりする家~松波の家#2

★は1~26回の建築文化賞受賞作品

お問い合わせ先

千葉県国土整備部都市整備局建築指導課
 一般社団法人 千葉県建築士会

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1
 TEL.043(223)3180 FAX.043(225)0913

〒260-0013 千葉市中央区中央4-8-5
 TEL.043(202)2100 FAX.043(202)2101

後援

(公社)千葉県建築士事務所協会

(一社)日本建築構造技術者協会関東甲信越支部JSCA千葉

(一社)日本建築学会関東支部千葉支所

(公社)日本建築家協会関東甲信越支部千葉地域会

(一社)千葉県設備設計事務所協会